

21世紀の言語教育の新しい方向性：  
ツールとしての言語教育から地球市民育成の言語教育へ



講演者： 當作靖彦 教授

(カリフォルニア大学サンディエゴ校)

日時： 2018年 7月 20日(金)

18:00～19:30

会場： 関西大学千里山キャンパス  
岩崎記念館 4階 F401教室

21世紀に入り、グローバル化が急速に進行し、テクノロジー主導の社会の急激、かつ大きな変化が進んでいます。教育の目的はその時代を生産的、効果的に生き、よい社会を作ることができる人間を育てることです。社会が変化すれば、教育の内容も方法も変化する必要があります。教育の一部である言語教育も新しい時代に対応するために当然変化することが要求されます。これまでの言語教育はコミュニケーションのツールとしての言語能力を身につけることが中心的な目的でしたが、そのような能力だけを身につけても多くの難しい課題に直面している21世紀のグローバル社会で機能する人間を作るとは難しいという認識から、言語、人種、宗教、歴史、文化、社会、政治などの違いを克服し、多様な人間とつながり、協働作業をし、社会を変え、社会に貢献し、持続可能な発展を続ける社会を作ることができる人間、いわゆる地球市民を作ることが言語教育の主たる目的に変わりつつあります。この講演では、人間形成を目的とした人間力、社会力を身につける市民教育としての言語教育(英語、日本語を含む外国語教育、国語教育、第二言語としての日本語教育、継承語教育など)はどのようなものか、特に課題先進国と言われ、ほかの国々に先駆け21世紀の多くの問題を抱えている日本という文脈の中で、市民教育としての言語教育がなぜ必要かを議論します。

